

●原 著

吸着式酸素濃縮器に組み込まれた加湿水が不要な加湿器の臨床的評価

鯛岡 直人¹⁾²⁾ 中本 幸子¹⁾ 服岡 泰司²⁾ 清水 英治²⁾

要旨：在宅酸素療法に吸着式酸素濃縮器が主に使用されている。吸着式酸素濃縮器は水蒸気も除去するため産生された酸素ガスは乾燥している。近年、加湿水が不要な加湿器（膜式加湿器）が開発され酸素濃縮器に組み込まれている。しかし、加湿性能や有用性に関して報告がほとんどない。臨床的有用性を明確にするため、室内気の相対湿度と膜式加湿器を組み込んだ酸素濃縮器からの酸素ガスの相対湿度を測定し相関関係を調べた。また、慢性呼吸不全患者の鼻腔の主観的乾燥感も聴取した。室内気の相対湿度と膜式加湿器を組み込んだ吸着式酸素濃縮器からの酸素ガスの相対湿度は有意の正相関を認めた。加湿性能は室内気の水蒸気量に影響を受けるが、使用により鼻腔の主観的乾燥感が改善した患者を確認できた。新しい加湿器は加湿水を利用しないため呼吸器感染の潜在的危険因子を除去でき、加湿水の交換が不要で自動加湿できるため在宅患者の QOL 改善に有用と思われた。

キーワード：汚染, 加湿器, 膜式加湿器, 酸素濃縮器

Contamination, Humidifier, Membrane humidifier, Oxygen concentrator

緒 言

酸素吸入は肺胞におけるガス交換が障害され、低酸素血症状態にある患者の臨床病態改善に必要な治療手段である。慢性呼吸不全患者の長期管理に、持続的酸素吸入療法が有効であることは以前からよく知られている¹⁾。携帯用酸素機器が1960年代に開発され、在宅酸素療法の基礎が築かれた。在宅酸素療法は、酸素療法が必要な慢性呼吸不全患者に対して住み慣れた自宅で療養を行える利点があり、患者の生活の質（QOL）を改善できる治療法である。在宅酸素療法に用いられる酸素供給装置は設置型酸素濃縮器、液化酸素および携帯用酸素ボンベなどがある。在宅で酸素を供給できる小型酸素濃縮器の開発で在宅酸素療法が簡便となり、本邦でも1985年に社会保険の適用が認められ広く普及している。

病院配管あるいは酸素ボンベからの酸素は相対湿度が0%近くまで乾燥している。さらに、広く使用されている吸着式酸素濃縮器は窒素を吸着する際に、水蒸気も除去するため、得られる酸素ガスは乾燥している。一般的に鼻腔、口腔などの気道粘膜、線毛運動の傷害を防ぐため、乾燥した酸素ガスは加湿器を用いて加湿される。臨床で用いられる加湿器は、乾燥した酸素ガスを加湿瓶に

入った滅菌蒸留水の中をくぐらせ加湿する bubbling humidifier, 滅菌蒸留水の入った加湿瓶の中をくぐらせず、上部を通過させるだけの pass-over humidifier などがある。加湿水を用いた再使用型の酸素ガス加湿器は院内肺炎、呼吸器感染症の潜在的因子になりうるため^{2)~5)}、室内の湿度が十分に保たれていれば鼻カニュラの場合、日本呼吸器学会/日本呼吸管理学会ガイドライン⁶⁾では鼻カニュラで3L/分以下まで、米国呼吸療法協会（AARC：American Association for Respiratory Care）の酸素療法ガイドライン⁷⁾では鼻カニュラで4L/分以下まで、米国胸部学会（ATS：American Thoracic Society）ガイドライン⁸⁾では鼻カニュラで5L/分以下までの酸素流量ならば、あえて酸素を加湿しなくて良いとされる^{6)~10)}。

本邦で世界に先駆け、酸素分子、窒素分子は拡散させず水分子を極めて容易に拡散・通過させる特殊膜を用いた加湿器が開発され、吸着式酸素濃縮器に組み込まれ臨床応用されている。加湿水の不要な加湿器（以下、膜式加湿器）は、以前我々が初めて開発した際、膜式加湿器と名付けている^{11)~13)}。しかし、市販されている膜式加湿器が組み込まれた吸着式酸素濃縮器の加湿性能を臨床評価した報告はほとんどない。今回、本邦で商業的に利用可能な吸着式酸素濃縮器に組み込まれた膜式加湿器を臨床評価した。

対象と方法

空気は一定の水蒸気を含み、その空気中の水蒸気を厚みのある特殊な膜を用いて集め、内部を通過させた乾燥

〒683-8503 鳥取県米子市西町 36-1

¹⁾鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻病態検査学講座病因・治療管理学分野

²⁾鳥取大学医学部統合内科医学講座分子制御内科学分野
(受付日平成22年6月28日)

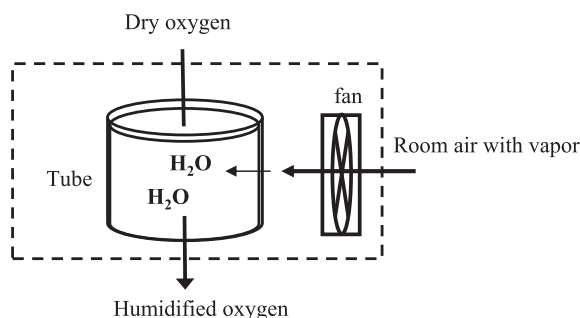


Fig. 1 Structure and function of a membrane humidifier that does not need additional reservoir water. Air with water vapor is passed through an outer passage. Water vapor only permeates the tube with the membrane. Dry oxygen is passed inside the tube, and is humidified with water vapor.

酸素ガスに水分子を加えるという新しい技術が膜式加湿器の原理である (Fig. 1). 加湿性能と臨床の有用性を調べるため以下を検討した. 本研究は鳥取大学医学部の倫理委員会の許可を得ている.

1. 膜式加湿器が組み込まれた吸着式酸素濃縮器の加湿性能の客観的測定

膜式加湿器が組み込まれた吸着式酸素濃縮器, ハイサンソ 3C (帝人株式会社, 東京) およびクリーンサンソ FH-22/5L (フクダ電子株式会社, 東京) から産生された酸素ガスの相対湿度を測定し加湿性能を客観的に調査した. 測定場所は鳥取県米子市, 鳥取大学医学部附属病院で, 測定時期は各季節が網羅できるようにハイサンソ 3C で 2006 年の冬期から 2007 年の冬期までの任意の延べ 50 日間, クリーンサンソ FH-22/5L は 2007 年の夏季から 2008 年の夏季までの任意の延べ 20 日間とした. 各 1 台の機械を用いて測定した.

室内気の相対湿度と対象酸素濃縮器からの加湿酸素の相対湿度の関係を調べるためデジタル湿度計 (TRH-CA, 神栄株式会社, 東京) を用いて (1) 室内の相対湿度を測定, (2) 従来型吸着式酸素濃縮器から加湿されていない酸素流の相対湿度を調べるため, 膜式加湿器を組み込んでいない吸着式酸素濃縮器 (FH-17/5L フクダ電子株式会社, TO-90-5L 帝人株式会社, 各 1 台使用) から 20 分間, 500ml の容器に加湿されていない酸素流を流しデジタル湿度計で容器内部の酸素ガス相対湿度を測定, (3) 膜式加湿器の性能を調べるため, 膜式加湿器を組み込んだ対象酸素濃縮器から 20 分間, 500ml の容器に加湿された酸素流を流し容器内部の酸素ガス相対湿度を測定した. さらに, 室内気の相対湿度と加湿された酸素流の相対湿度の相関関係を 2 社の機種で調べた. 相対湿度測定時の吸着式酸素濃縮器からの酸素流量は 2L/分とし

た. 相対湿度とは, その時の気温で大気中に含まれる水蒸気量を飽和水蒸気量で割り算し, 百分率表示した値である. 相対湿度は 0~100% までの値をとる. 室内気の相対湿度と加湿された酸素流の相対湿度の直線相関は Pearson's coefficient を用いて, $p < 0.05$ を有意とした (StatView, SAS Institute Inc., Cary, NC).

2. 慢性呼吸不全患者の酸素吸入時の主観的調査 (鼻腔に対する乾燥感)

対象は酸素流量 3L/分以下の酸素吸入療法を受けている慢性呼吸不全の入院患者 17 人 (慢性閉塞性肺疾患 9 人, 間質性肺炎 2 人, 肺結核後遺症 1 人, その他 5 人). 年齢は 76.9 ± 6.8 歳, 性別は男性 12 人, 女性 5 人であった. 全員, 滅菌蒸留水を用いた加湿器を使用せず壁配管から酸素吸入を鼻カニューラで行っていた. これら対象患者に対して, 鼻腔の乾燥感を感じているか聴取した. その後, 膜式加湿器が組み込まれた吸着式酸素濃縮器を約 6 時間使用した後, 主観的な鼻腔乾燥感を再度聴取した. 患者には吸着式酸素濃縮器からの酸素ガスが加湿されていることを伏せて調査を行った.

結 果

1. 室内気の相対湿度と膜式加湿器が組み込まれた吸着式酸素濃縮器からの酸素流の相対湿度の相関関係

膜式加湿器が組み込まれていない従来型吸着式酸素濃縮器からの加湿されていない酸素の相対湿度は室内気と相関はなく, $2.7 \pm 1.5\%$ (平均 \pm 標準偏差) であった. Fig. 2 は室内気の相対湿度と帝人株式会社の膜式加湿器が組み込まれた酸素濃縮器 (ハイサンソ 3C) からの加湿酸素相対湿度の相関関係である. Fig. 3 は室内気の相対湿度とフクダ電子株式会社の膜式加湿器が組み込まれた酸素濃縮器 (クリーンサンソ FH-22/5L) からの加湿酸素相対湿度の相関関係である. 室内気の相対湿度と膜式加湿器が組み込まれた吸着式酸素濃縮器からの酸素流の相対湿度は各々正の相関を示した. 相関式の傾きは Fig. 2 で 0.8521, Fig. 3 で 0.8524 とほぼ同一の値を示した. すなわち, 酸素流量 2L/分では室内気の相対湿度の約 0.85 倍に酸素ガスを加湿可能となる. 膜式加湿器の加湿能力は 2 機種で, ほぼ同等であるが, 両者とも室内気の相対湿度に影響を受ける.

2. 慢性呼吸不全患者に使用した際の主観的調査 (鼻腔に対する乾燥感)

慢性呼吸不全患者に対して処方された壁配管の吸入酸素流量は 0.5L/分が 2 人, 1L/分が 3 人, 1.25L/分が 1 人, 1.5L/分が 4 人, 2L/分が 6 人, 3L/分が 1 人であった. 全例, 加湿器を使用せず壁配管の酸素吸入を行っていた. 壁配管の酸素を鼻カニューラで吸入して 17 人中 5 人 (酸素流量, 1.25L/分が 1 人, 2L/分が 3 人, 3L/分が 1 人)

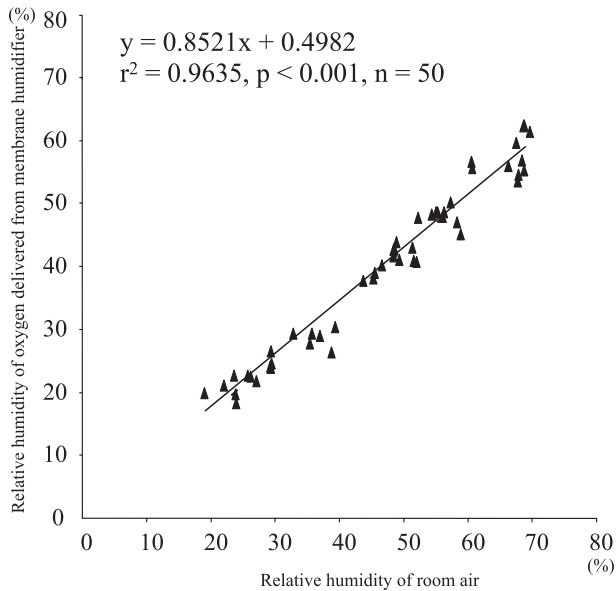


Fig. 2 Single linear regression plot of relative room air humidity and of oxygen delivered by a PSA-type oxygen concentrator (HAI-SANSO 3C, Teijin Pharma Co, Tokyo, Japan) equipped with a membrane humidifier that does not need additional reservoir water.

が慢性的に鼻腔の乾燥感を訴えていた。各酸素吸入流量を膜式加湿器が組み込まれた吸着式酸素濃縮器で約6時間使用、吸入した後、主観的な鼻腔乾燥感を聴取したところ、慢性的に鼻腔の乾燥感を訴えていた5人中3人が改善したと回答した(2L/分, 3人)。

考 察

室内気の相対湿度と新型加湿器で加湿した酸素ガスの相対湿度の直線相関結果から、帝人株式会社とフクダ電子株式会社の酸素濃縮器に組み込まれている膜式加湿器の性能は、ほぼ同等と考えられた。また、長期酸素吸入している慢性呼吸不全患者において、3L/分以下の低流量酸素吸入でも鼻腔に乾燥感を自覚している患者がいることが分かった。鼻腔乾燥感を自覚する患者に対して膜式加湿器が組み込まれた酸素濃縮器を使用すれば乾燥感が改善する場合があることも明らかとなった。

酸素富化膜式酸素濃縮器と吸着式酸素濃縮器が設置型酸素濃縮器として利用されてきた。現在は使われていないが、酸素富化膜式酸素濃縮器は特殊な膜を利用する。酸素富化膜は気体分離膜の一種であり、窒素分子より酸素分子が容易に通過しやすい膜である。空気を酸素富化膜に出口側を減圧して通過させると膜に酸素分子が拡散して酸素濃度が約40%の酸素ガスを得ることができる。動作音が小さく、加湿器が不要(水分子は富化膜を通過

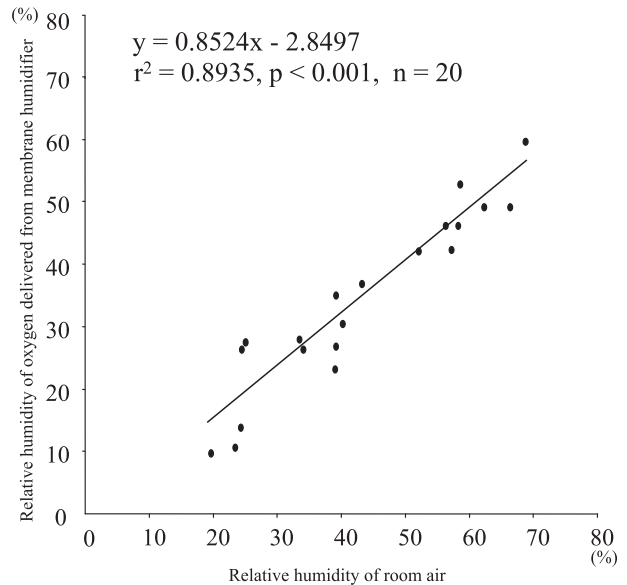


Fig. 3 Single linear regression plot of relative room air humidity and of oxygen delivered by a PSA-type oxygen concentrator (Clean-SANSO FH-22/5L, Fukuda Denshi Co, Tokyo, Japan) equipped with a membrane humidifier that does not require additional reservoir water.

するため)という利点があるが、得られる酸素濃度が低いため利用されなくなっている。現在主流の吸着式酸素濃縮器はpressure swing adsorption (PSA)式とも呼ばれる。吸着式酸素濃縮器は、圧力を加えると窒素を吸着する性質のゼオライトを用いて空気中の窒素を分離し酸素に富んだガスを得る装置である。得られる酸素濃度は約90~93%である⁶⁾。ゼオライトは窒素だけでなく空気中の水蒸気も除去するため、得られた酸素ガスは乾燥している。以前は大型で動作音が大きかったが小型化改良も行われ、最も多く使用されている酸素濃縮器である^{11)~13)}。

現在、広く普及している吸着式酸素濃縮器は、窒素吸着に使用するゼオライトが空気中の水蒸気も除去するため、患者が高流量の酸素吸入する際、加湿器で加湿する。従来、酸素濃縮装置に付随している加湿器は2種類ある。酸素ガスを加湿水に潜らせて加湿する“bubbling humidifier (気泡式)”と加湿水の上を通過させる“pass-over humidifier (表面気化式)”である。得られる相対湿度は酸素流量によって異なる¹⁴⁾。前者は酸素流量3L/分までならば、酸素ガスを相対湿度で約60~90%程度に加湿できることが多いが¹¹⁾¹²⁾¹⁴⁾、後者は相対湿度で約30~60%前後程度に加湿できると報告されている¹⁴⁾。加湿水を使用した方法の欠点として、在宅で高齢者にとって滅菌蒸留水の交換が煩雑であり、継ぎ足しや交換忘れなどで細

菌、真菌による加湿水汚染の可能性もある。また、酸素ガスを加湿水に潜らせて加湿する“bubbling humidifier”は音が大きい。

最近になり、フクダ電子株式会社と帝人株式会社から“加湿水の不要な加湿器（膜式加湿器）”が開発され、吸着式酸素濃縮器に装備されている。加湿原理は、以前、我々が開発・報告した膜式加湿器と同じである^{11)~13)}。空気は一定の水蒸気をもっており、その水蒸気を厚みのある特殊な膜を用いて集め、乾燥した酸素ガスに加えるという新しい技術である¹⁵⁾。我々の方法は、密閉されたシリンドー内に水分子のみを通過させるポリイミド系の膜を持った中空糸を約700本入れて、中空糸の外側に水蒸気を含んだ空気を加圧して通過させる。空気中の水分子は中空糸膜を拡散し、中空糸膜内部に入る。中空糸内部に吸着式酸素濃縮装置からの乾燥した酸素ガスを通過させると、中空糸膜外側から拡散した水によって加湿される。中空糸膜は細菌、真菌を通過させず、加湿水も使用しないため衛生的である¹³⁾。加湿用の水を交換する必要がないため簡便である。一方、加湿性能は空気中の水蒸気量に大きな影響を受ける^{11)~13)}。

フクダ電子株式会社と帝人株式会社の市販されている吸着式酸素濃縮器に搭載されている膜式加湿器は、水分子のみを拡散させる中空膜を用いている点は同じであるが空気を積極的に加圧していないため、加湿性能は我々が開発した装置より低くなっていた。Fig. 2, 3に示したように、室内気の相対湿度と加湿された酸素ガスの相対湿度は比例する。室内気の相対湿度と膜式加湿器が組み込まれた吸着式酸素濃縮器からの酸素流の相対湿度は各々正の相関を示し、相関式の傾きはFig. 2で0.8521, Fig. 3で0.8524とほぼ同一の値を示した。すなわち、両機種とも酸素流量2L/分の時は、室内気の相対湿度の約0.85倍に酸素ガスを加湿可能であった。しかし、酸素流量が増加すれば酸素ガスに対する加湿効果が低下すると予測され¹⁴⁾¹⁶⁾、その場合、Fig. 2, 3の傾きは0.85より小さくすると推測される。一方、膜式加湿器が組み込まれていない吸着式酸素濃縮器からの酸素流の相対湿度は平均2.7%と乾燥しているため、在宅で24時間酸素吸入する患者にとって膜式加湿器が組み込まれた吸着式酸素濃縮器使用は利点があると考えられた。実際に入院中の患者に使用してみると、壁配管からの酸素吸入を加湿なしで行っていた患者で鼻腔乾燥感を自覚していた5人中、3人に自覚的改善を確認できた。Miyamotoらはvisual analog scaleで乾燥酸素吸入と加湿酸素吸入による鼻腔乾燥感を調べ、乾燥酸素流量が増すと健常者、呼吸器疾患患者ともに鼻腔乾燥感が強くなると報告している¹⁷⁾。また、吸着式酸素濃縮器に附属した加湿器に精製水を入れた群と入れない群で4週間使用後、自覚症状の

アンケート調査をした研究で加湿器に精製水を入れて使用した群で有意に鼻の乾きが少なかったとする報告がある¹⁸⁾。

本研究の問題点として、膜式加湿器の性能を酸素流量2L/分のみの実験で測定した結果であり、壁配管からの酸素吸入と膜式加湿器が組み込まれた酸素濃縮器からの酸素吸入は実験者、被験者に対してブラインドでない点がある。今回、耳鼻科医師などによる客観的所見を調べていないため、今後visual analog scaleなどを含めて調べる必要もある。酸素の配管口にY字管をつなぎ片方に酸素加湿器（アクアパック[®]）を片方には直接、鼻カニューラを接続し患者に加湿の有無がわからないようにシングルブラインドで行った実験によると、鼻の乾燥感、喉や口の渇きの自覚症状は酸素ガス加湿によって有意な改善を認めなかったとする報告がある¹⁹⁾。しかし、この報告の中でも個々の患者をみると鼻の乾燥感、喉や口の渇きの症状が加湿により改善する症例があるため臨床的には自覚症状を訴える患者については柔軟に対応すべきとしている。さらに、膜式加湿器の問題点として室内気の相対湿度が低いと十分な加湿が得られない点がある。しかし、室内気の相対湿度が低いときに外側の水蒸気を含んだ空気を加圧する機能を追加すれば加湿性能を高められる可能性はある。

在宅酸素療法は慢性呼吸不全患者に対して重要な治療法である。本邦では酸素濃縮器を使って在宅酸素療法が容易に行える。新しい技術を付加価値として開発し、酸素濃縮器に組み込み在宅患者のQOLを改善させることは在宅酸素療法において新しい課題となっている。低流量酸素吸入時に酸素ガスを必ずしも加湿しなくてよいとされるが、乾燥感を訴える患者が存在するため新しい技術を応用した加湿水不要な膜式加湿器の在宅医療における意義は大きい。今後、膜式加湿器組み込みの臨床的効果に関して多数例で詳細な検討が有効性確認に必要と思われる。

謝辞：本研究の一部は財団法人・在宅医療助成・勇美記念財団助成金により行った。

引用文献

- 1) Miyamoto K, Aida A, Nishimura M, et al. Gender effect on prognosis of patients receiving long-term home oxygen therapy. *Am J Respir Crit Care Med* 1995; 152: 972—976.
- 2) Zuravleff JJ, Yu VL, Shonnard JW, et al. *Legionella pneumophila* contamination of a hospital humidifier. Demonstration of aerosol transmission and subsequent subclinical infection in exposed guinea pigs. *Am Rev Respir Dis* 1983; 128: 657—661.

- 3) Moiraghi A, Castellani-Pastoris M, Barral C, et al. Nosocomial legionellosis associated with use of oxygen bubble humidifiers and underwater chest drain. *J Hosp Infect* 1987; 10: 47—50.
- 4) Kobayashi N, Yamazaki T, Maesaki S. Bacteriological monitoring of water reservoirs in oxygen humidifiers: safety of prolonged and multipatient use of prefilled disposable oxygen humidifier bottles. *Infect Control Hosp Epidemiol* 2006; 27: 320—322.
- 5) Bou R, Ramos P. Outbreak of nosocomial Legionnaires' disease caused by a contaminated oxygen humidifier. *J Hosp Infect* 2009; 71: 381—383.
- 6) 日本呼吸器学会肺生理専門部会, 日本呼吸管理学会酸素療法ガイドライン作成委員会編. 酸素療法ガイドライン. メディカルレビュー社, 東京, 2006.
- 7) AARC clinical practice guideline. Oxygen therapy in the home or extended care facility. American Association for Respiratory Care. *Respir Care* 1992; 37: 918—922.
- 8) Official statement of the American Thoracic Society. Standards for the diagnosis and care of patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Am J Respir Crit Care Med* 1995; 152 (Pt 2): S77—121.
- 9) Fulmer JD. ACCP-NHLBI National conference on oxygen therapy, chairman. *Chest* 1984; 86: 234—247.
- 10) Campbell EJ, Baker MD, Crites-Silver P. Subjective effects of humidification of oxygen for delivery by nasal cannula. A prospective study. *Chest* 1988; 93: 289—293.
- 11) Burioka N, Takano K, Hoshino E, et al. The clinical utility of newly developed pressure swing adsorption type oxygen concentrator with membrane humidifier. *Respiration* 1997; 64: 268—272.
- 12) Burioka N, Takano K, Suyama H, et al. Efficacy of newly developed pressure swing adsorption type oxygen concentrator with membrane humidifier: Comparison with conventional oxygen concentrator with bubble water humidifier. *Internal Med* 1997; 36: 861—864.
- 13) Burioka N, Takano K, Chikumi H, et al. Clinical and in vitro evaluation of membrane humidifier that does not require addition of water. *Respir Med* 2000; 94: 71—75.
- 14) 小熊英敏, 宮本顕二, 木野靖史, 他. 酸素加湿器の加湿能力の検討. *日本呼吸管理学会誌* 2004; 13: 511—515.
- 15) Burioka N, Chikumi H, Suyama H, et al. Membrane humidifier that does not require addition of water. *Yonago Acta medica* 1999; 42: 185—188.
- 16) 宮本顕二. 経鼻的低流量(低濃度)酸素吸入に酸素加湿は必要か? *日呼吸会誌* 2004; 42: 138—144.
- 17) Miyamoto K, Nishimura M. Nasal dryness discomfort in individual receiving dry oxygen via nasal cannula. *Respir Care* 2008; 53: 503—504.
- 18) 大野彰二, 川口一男, 管野康夫, 他. 低流量酸素濃縮器における加湿の必要性について. *日本呼吸管理学会誌* 2003; 12: 370—373.
- 19) 伊藤 史, 阿部友美, 加藤奈保子, 他. 低流量酸素吸入における酸素加湿の有無と自覚症状の比較. *日本呼吸管理学会誌* 2003; 13: 315—319.

Abstract**Clinical evaluation of an oxygen concentrator and humidifier that does not require additional reservoir water**

Naoto Burioka¹⁾²⁾, Sachiko Nakamoto¹⁾, Yasushi Fukuoka²⁾ and Eiji Shimizu²⁾

¹⁾Division of School of Health Science, Department of Pathobiological Science and Technology,
Faculty of Medicine, Tottori University

²⁾Division of Medical Oncology and Molecular Respiriology, Faculty of Medicine, Tottori University

A conventional humidifier with a reservoir of water for humidification can produce micro-aerosols contaminated with bacteria. The present study was undertaken to determine the clinical efficiency of a membrane humidifier that does not require additional reservoir water. We analyzed relative room air humidity and oxygen levels obtained from 2 pressure-swing adsorption (PSA)-type oxygen concentrators with membrane humidifiers. A significant correlation was found between relative room air humidity and that of oxygen moistened by a membrane humidifier. Several patients with chronic respiratory failure experienced improvements in subjectively reported nasal dryness using an oxygen concentrator with a membrane humidifier. This device avoids the need to change reservoir water, and may improve patient quality of life in the home.